

創造心理学（恩田彰 著）を読んで

電子工学科 木下 敏治

創造および創造性に関する研究は、最近学会においてその重要性が認識されるようになり、各種論文が出るような状況になっている。この本は創造心理学の体系化を行い我が国において発想法において西欧に勝る独創的な方法論が生み出されていることを示している。禅の悟りと創造性について第十五章に詳しく書かれている。悟りとは、冷暖自知といって、実際に水にふれ、火にふれて、その冷暖の事実を自らはっきり体験的につかむことにあると言えよう。また悟りは、一種の禅体験である。またこの体験は、自己と自然、宇宙と一致した、自己と対象とが、一体化した体験であり、主客未分の純粹体験である。これを心身関係からいえば、心身脱落といい、自己に関していえば、自己透脱の状態をして三昧という。内外打成一片となる、すなわち自己が雨だれになりきっている状態がそれである。これを自己の立場からいえば、自己が自己に自己自身になりきるというものである。第十五章の二では、悟りの体験とその論理について鈴木大拙先生を例に出して、その具体的内容を詳しく解説している。たとえば、水とは何かという定義をし、概念を規定する場合一般には「水は液体である」または、「常温の水は、液体である」という。しかし水は、いつでも液体の状態にとどまらない。温度が下がれば、結氷して固体になる。これを氷と名付けている。また温度が上昇して、気体になる。これを水蒸気と名付けている。もう少し別の観点から考察してみよう。常温の水は、いかなる場合でも「液体」としてのふるまいをしないものである。たとえばジェット機が失速して海面に激突したとしよう。水は分子相互の位置関係を変えているひまはない。そのため水は「液体」としてよりも、むしろ「固体」に近い振る舞い方をする。そのさい起こっている現象は、水は「液体」ではなく、「固体」であると考えた方がよい。すなわち、液体としての水→液体としての水でない→固体、としての水、公式化すれば、 $A \rightarrow \text{non}A \rightarrow B$ 言い換えれば、 $A = \text{non}A$ 故に $A = B$ 、ここにおいて即非の論理は、認識の論理にとどまらず、変換の論理または創造の論理に転化するのである。また、西田幾多郎先生のいう「絶対矛盾的自己同一」の原理もこの禅の論理と同じ思想体系に属するものと見て良いと思う。市川先生によると科学としての現代創造論を大別すると、次の二つの立場がある。創造とは、既知の要素の新しい組み合わせであるとする、組み合わせ理論を根本におく考え方である。今ひとつは、創造とは、歴史的な過去を受け継いで、これを新しい条件の下で、未来にむかって変換・再構成していくことであるとする、歴史の論理を根本とする考え方である。市川先生の等価変換理論は、後者の代表的な考え方に属していると述べている。等価変換理論は「相異なる二つの事象 A,B の間に適当な思考観点 V_i を設定して、両者に共通する構成要素を抽出し、A,B に等価・対応関係を見つかることである」と定義されている。道元禅師は、「正法眼蔵」において、「仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは自己をわするなり。自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり」と述べている。この場合、「自己をならふ」の自己は、第一の自己であり、「自己をわする」は、第二の非自己で、無我であり、死にきった

自己である。そして「万法に証せらるる」は、これはものごとと一つになった自己、すなわち現成した「真実の自己」である。これは万法といっても、真実の自己といっても同じ事である。真実の自己は、個人の側からいえば、個々の状況において創出される自己実現する自己すなわち独自の個性であり、他方創造的所産からいえば、発明・発見などの科学における創造活動、芸術における創作活動などまたは日常生活における創造活動である。さらには、あらゆる創造物と自然が含まれるであろう。以上の内容は禅の悟りを創造過程として、考察してきたものであるが、技術者として独創的な研究活動や、日常業務を果たす上で大切なことを教えてくれていると思います。鈴木大拙先生は、英文で日本の仏教文化を西欧に紹介した第一人者であり、現在活躍している世界中の多くの人々に多大な影響を与えていると思います。初代石黒校長先生が基督教の熱心な信者であったので、基督教における祈りと仏教における祈りの違いを鈴木大拙全集第二十六巻にみつけられて、この先生は偉大な先生だなあと私に教えてくれました。初代長岡技科大の学長さんも独創精神という著書で鈴木大拙先生の影響を大きく受けたことにふれられています。現在の地球温暖化など人類にとって困難な現実に向かうとき、技術者として常に世界的仏教哲学者鈴木大拙の存在を忘れずに困難な問題に向かっているようではありませんか。